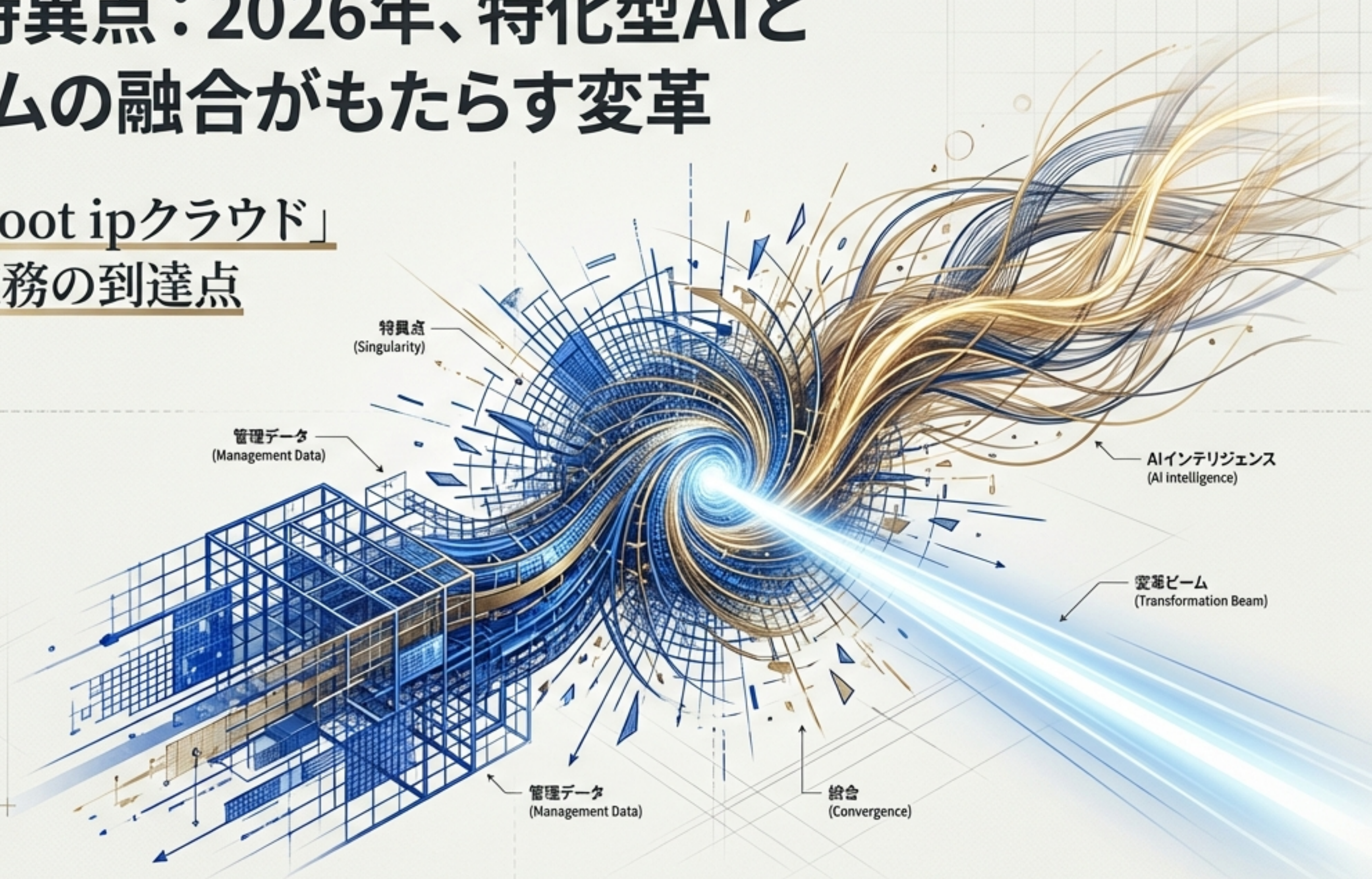


知財DXの特異点：2026年、特化型AIと 管理システムの融合がもたらす変革

「サマリア」×「root ipクラウド」
統合とAI特許実務の到達点

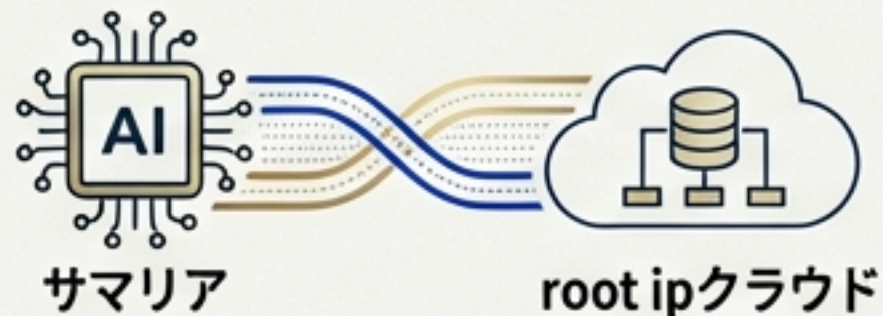


エグゼクティブサマリー：知財実務における不可逆的なパラダイムシフト

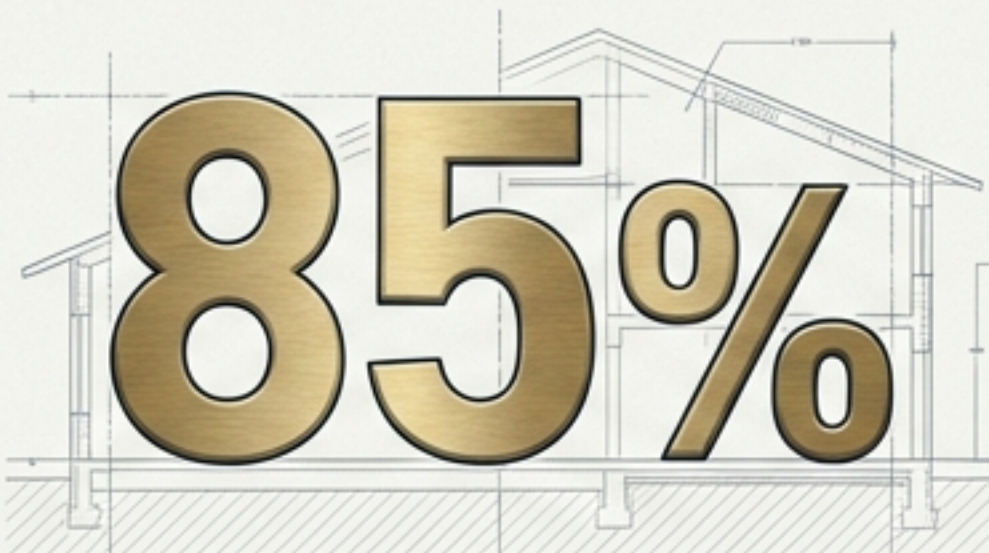
The Event



2026年2月、特化型AI「サマリア」と知財管理「root ipクラウド」が完全連携。「攻め」と「守り」の壁が消失。



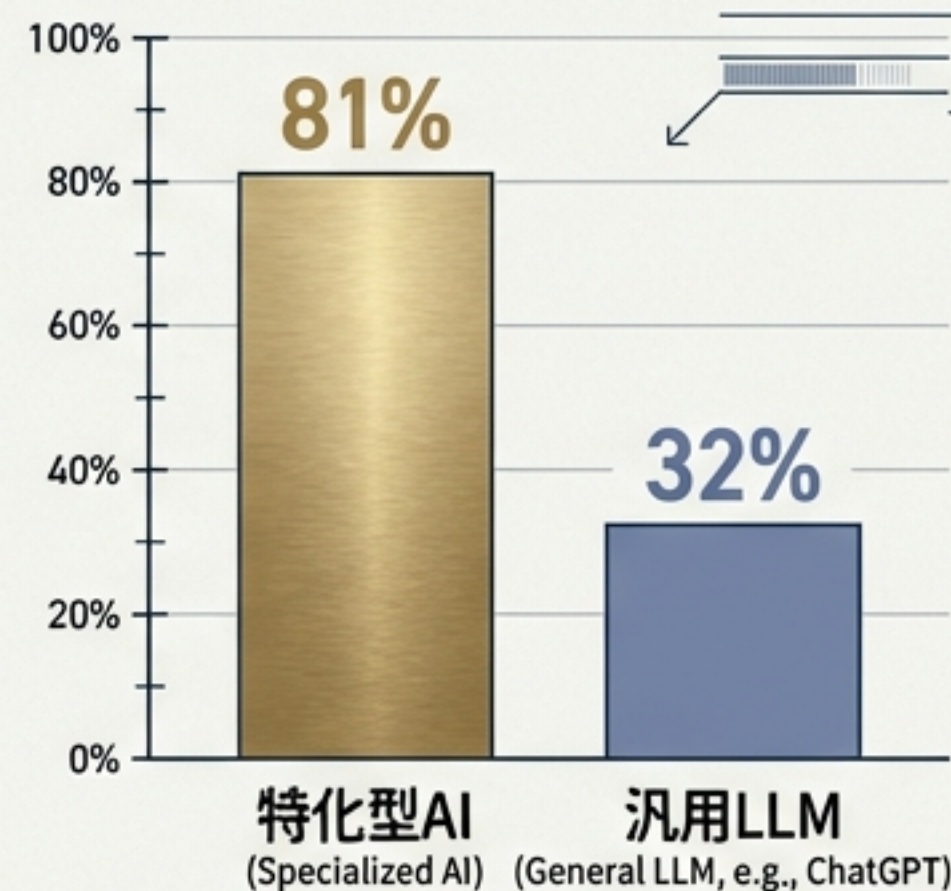
The Domestic Breakthrough



特許検索競技大会（上級者コース）基準で再現率（Recall）85%以上を達成。生成AIは「要約」から「実務代行」へ。



The Global Context



グローバル市場においても特化型AIが汎用LLM（ChatGPT等）を性能面で圧倒。（PatentBench X-Hit率: 81% vs 32%）

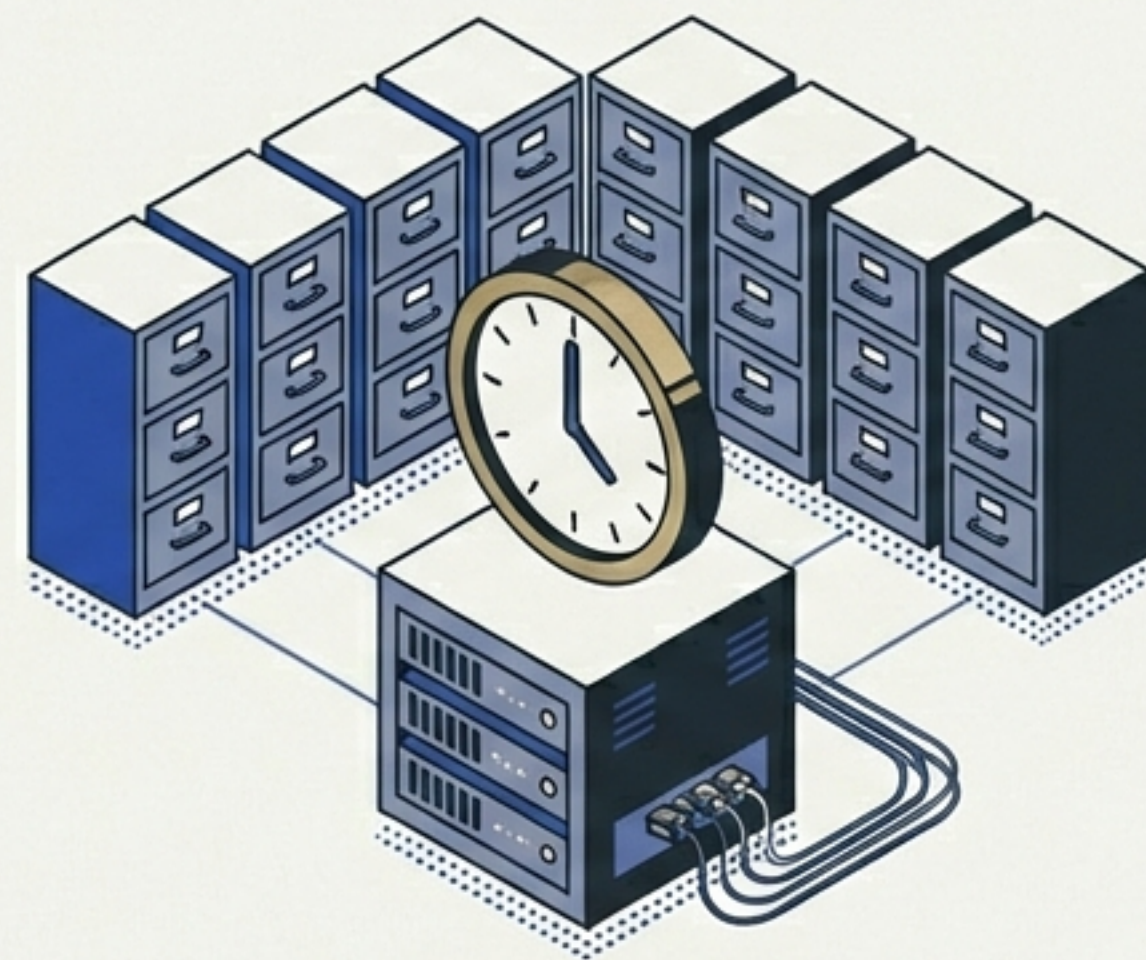
2026年以前の課題：「攻め」と「守り」の業務分断

攻め / Thinking



業務：調査、OA対応、ドラフティング
担い手：弁理士、サーチャー

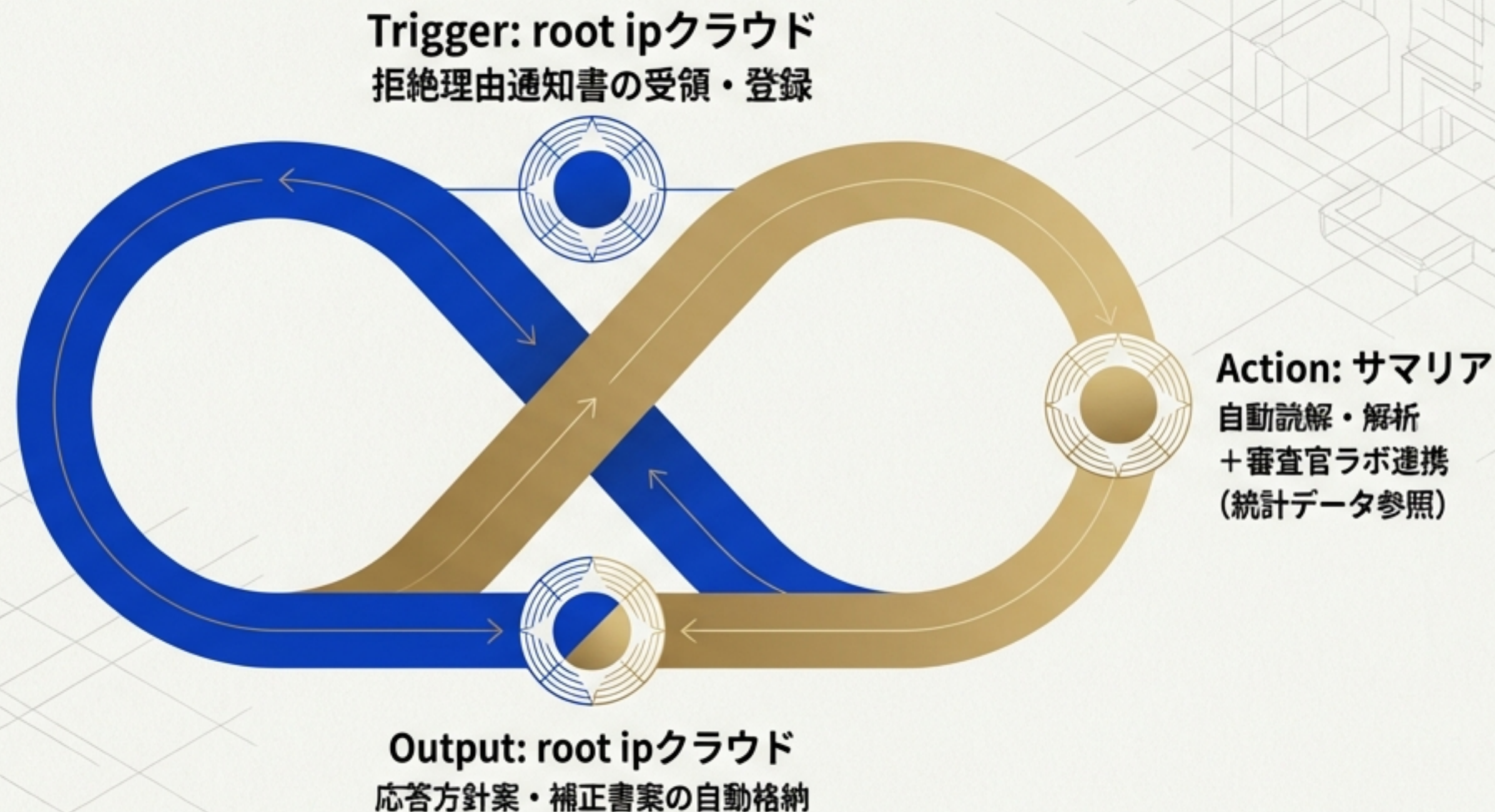
守り / Admin



業務：期限管理、年金管理
担い手：知財事務

ボトルネック：手動転記、
ファイル再アップロード、
情報のサイロ化

統合エコシステム：データ駆動型（Data-Driven）実務への進化

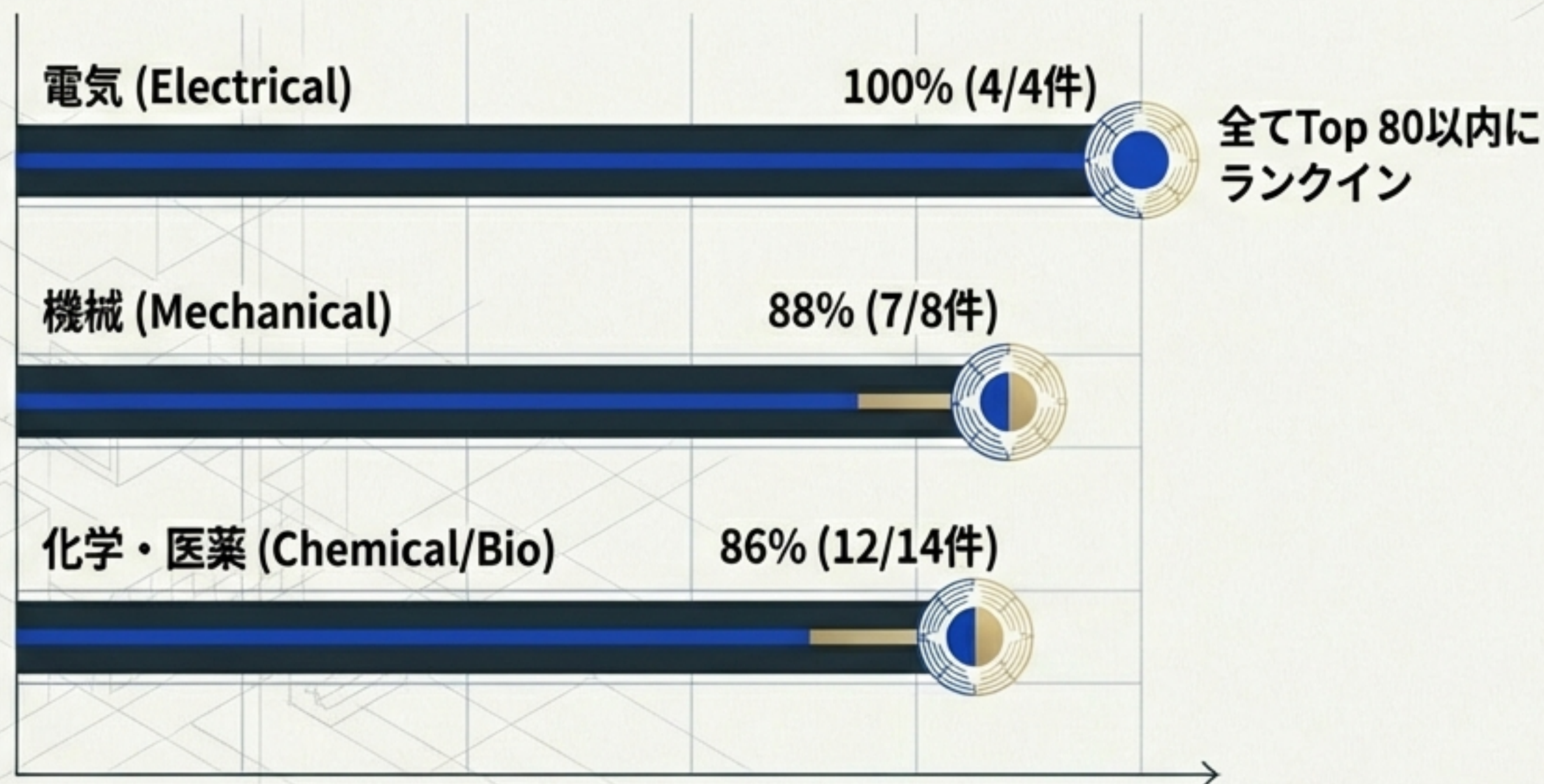


→ 「勘・経験」から「統計データ・AI解析」に基づく客観的戦略へ。APIによるシームレスな自動循環。

国内ベンチマーク検証：熟練サーチャーに匹敵する「再現率85%」

出典：特許検索競技大会2024 過去問（アドバンストコース）検証結果

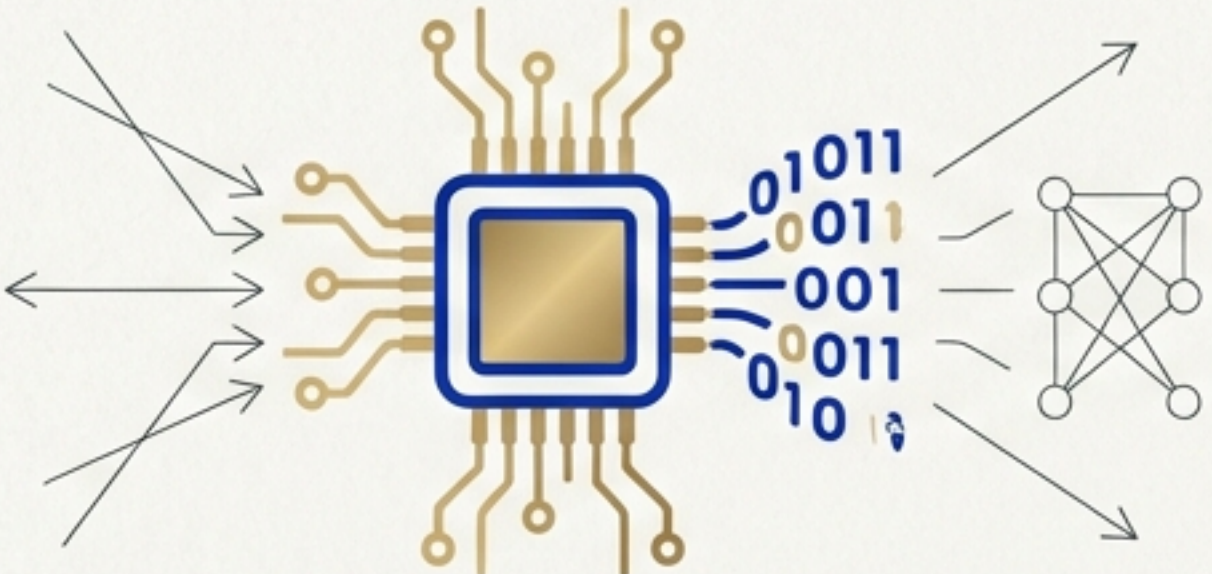
Top 100 Accuracy Benchmark



Key Insight

Breakthrough: 従来はトレードオフにあった「再現率（見落とし）」と「適合率（ノイズ減）」を同時達成。人間が読解可能なTop 100件に必要情報を凝縮。

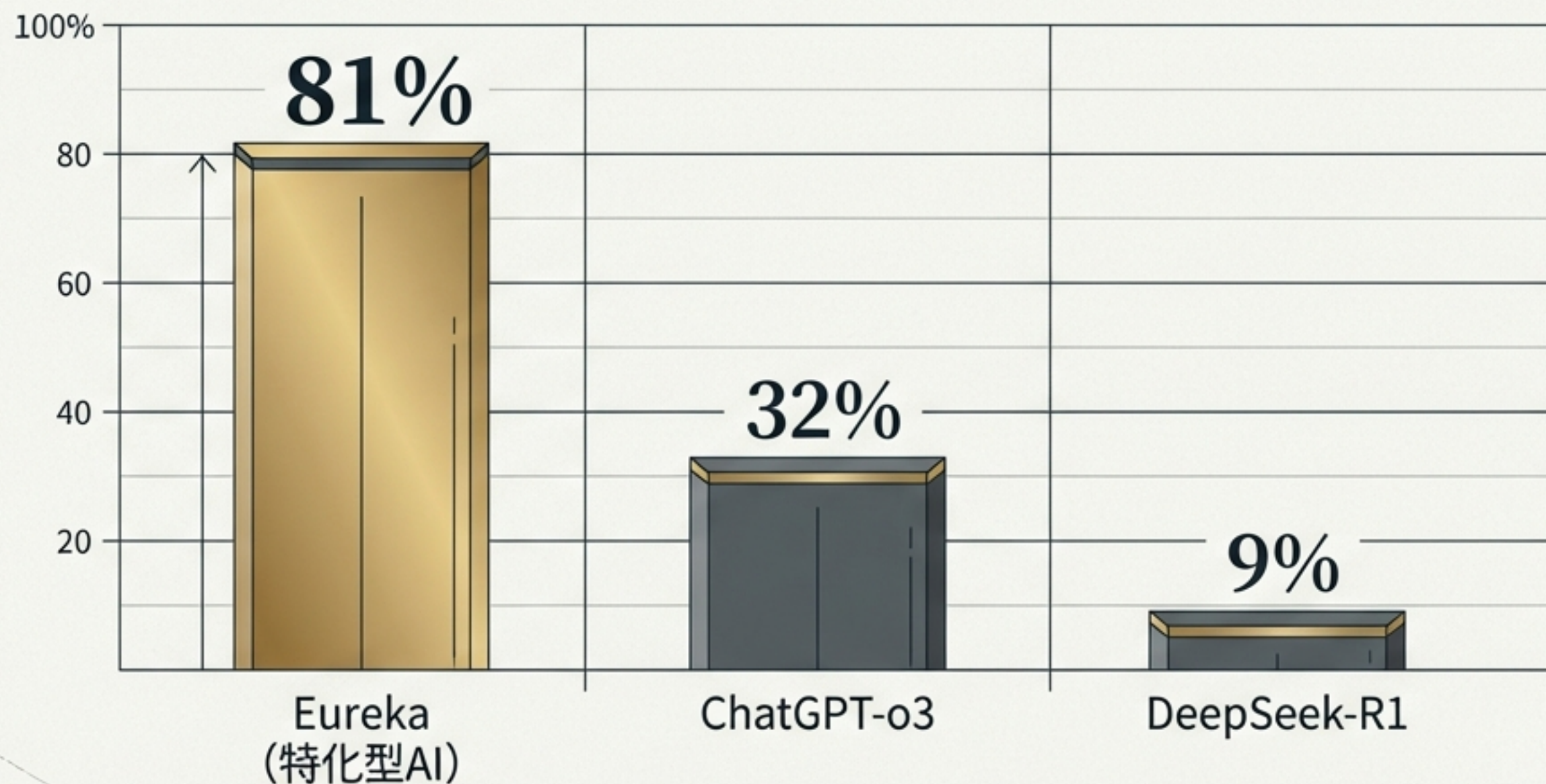
AIの現在地と限界：分野による特性差

得意領域：電気・ソフト	苦手領域：機械・化学
 機能や論理がテキスト記述されやすく、LLM推論と高親和性。 Top 10絞り込みでも高精度を維持。	 図面理解やマルクーシュ構造（超概念的構造）の包含関係理解に課題。 Top 10絞り込みで再現率が低下。

実務の最適解：AIは「母集団作成～Top 100スクリーニング」を担当。
最後の「Top 10（キラー文献特定）」は人間が行うハイブリッド運用が必須。

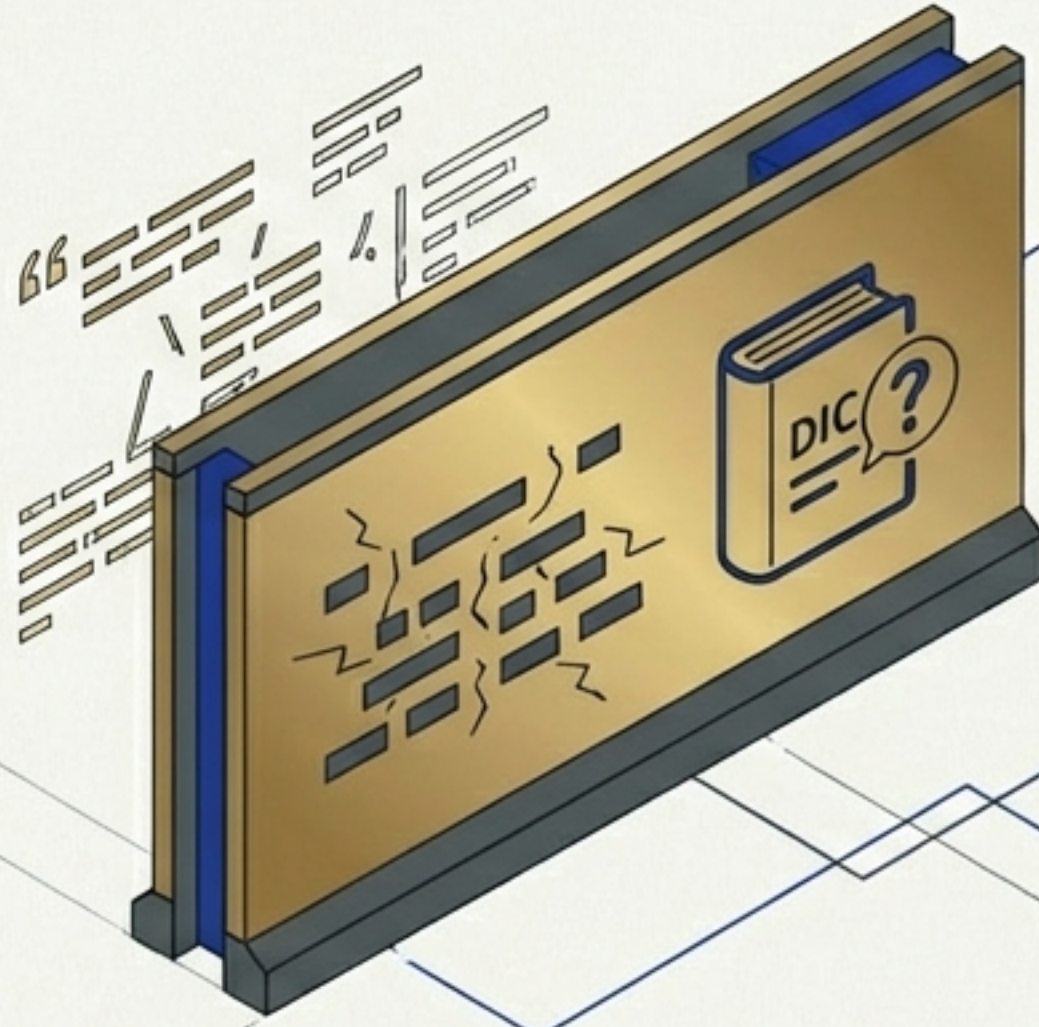
グローバル評価：汎用LLM vs 特化型AIの決定的な性能差

出典：PatSnap社「PatentBench」 (X文献発見率の比較)



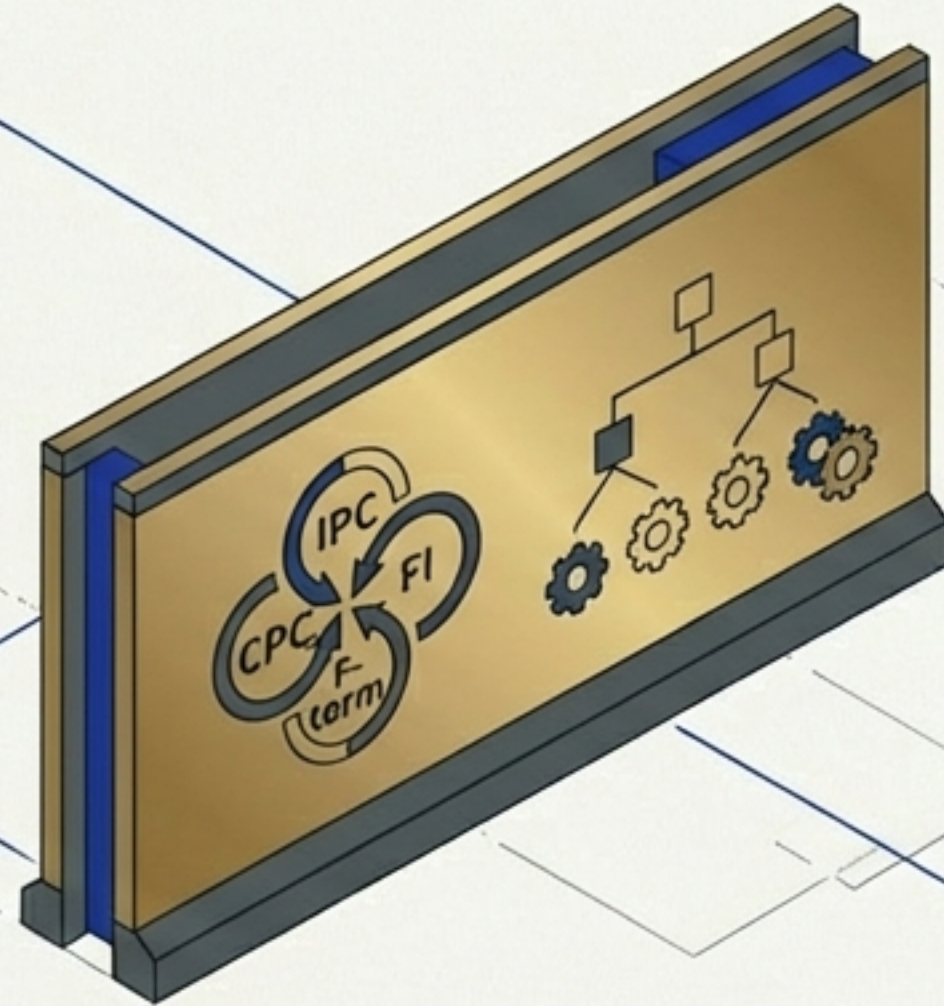
結論：特化型AIはプロフェッショナルな「見落としの許されない調査」に対応可能だが、汎用AIは実務レベルにおいて不適格である。

なぜ汎用AI（ChatGPT等）は特許調査に失敗するのか



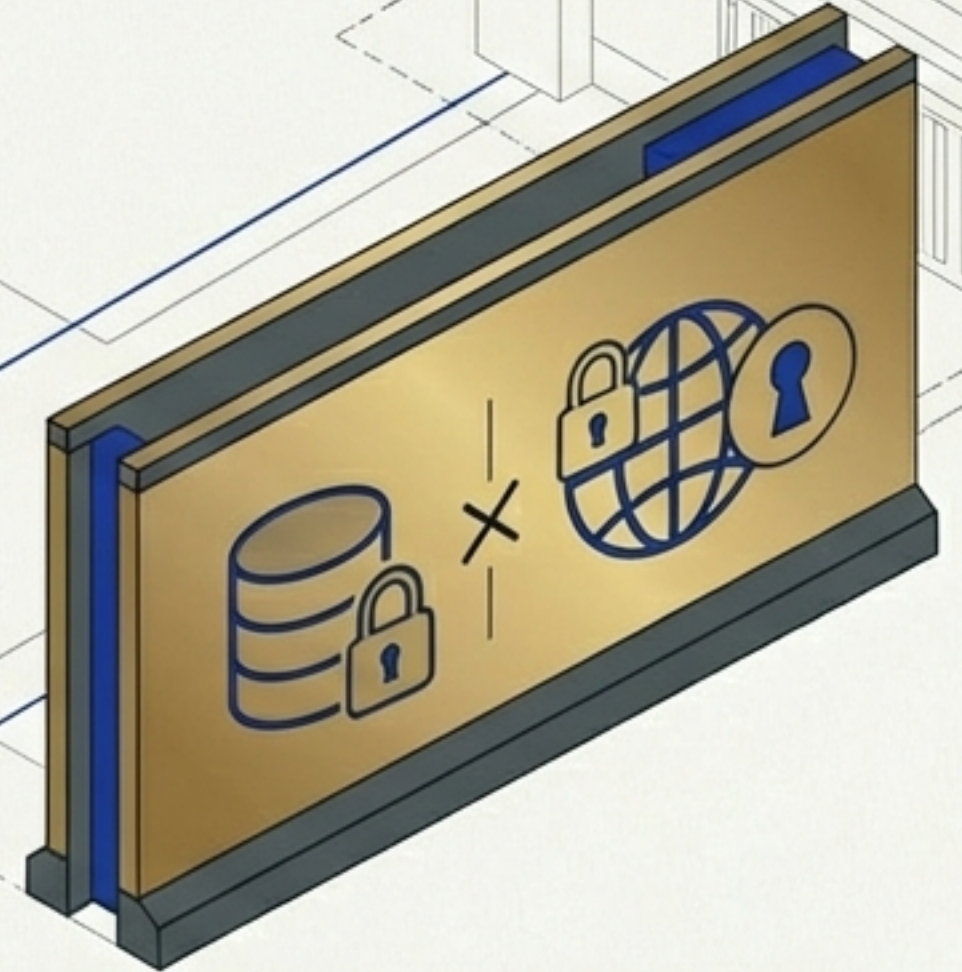
1. Semantics（言語の壁）

特許独特の難解な言い回しや
Lexicography（独自定義）を
解釈不能。



2. Taxonomy（分類の壁）

IPC/CPC/FI/Fタームの知識欠
如。キーワードが異なると技
術思想が同じでも見落とす。



3. Access（アクセスの壁）

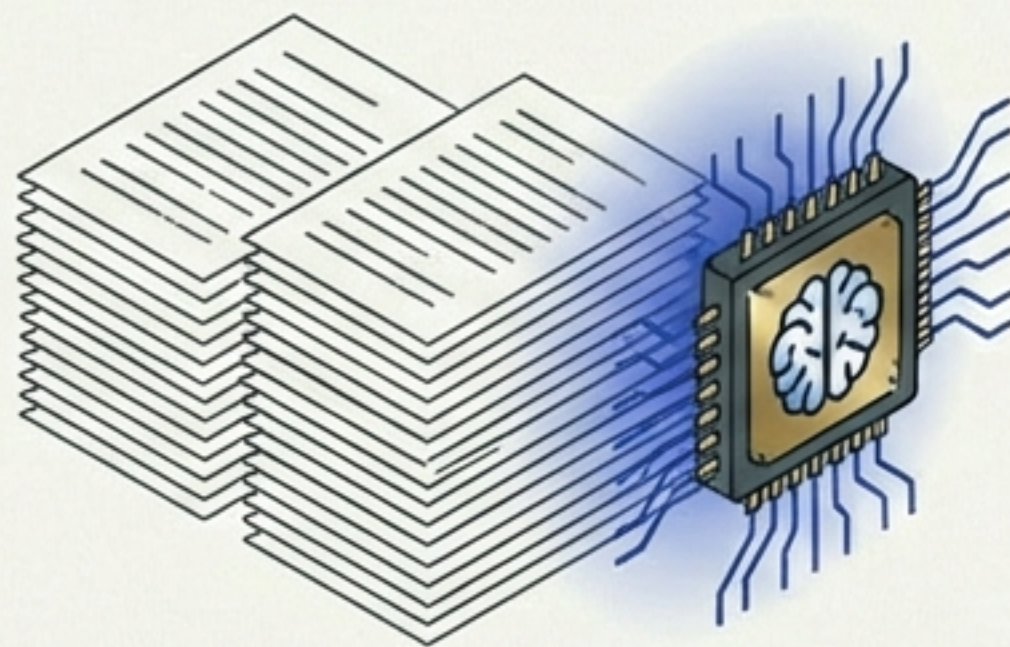
商用特許DBやDeep Webへの
の直接アクセス権がなく、
表面的な情報しか拾えない。

技術的ブレークスルー：「コンプリートサーチ」のアーキテクチャ

1. 検索式自動生成



2. 全文読解 (Full-Text Reading)

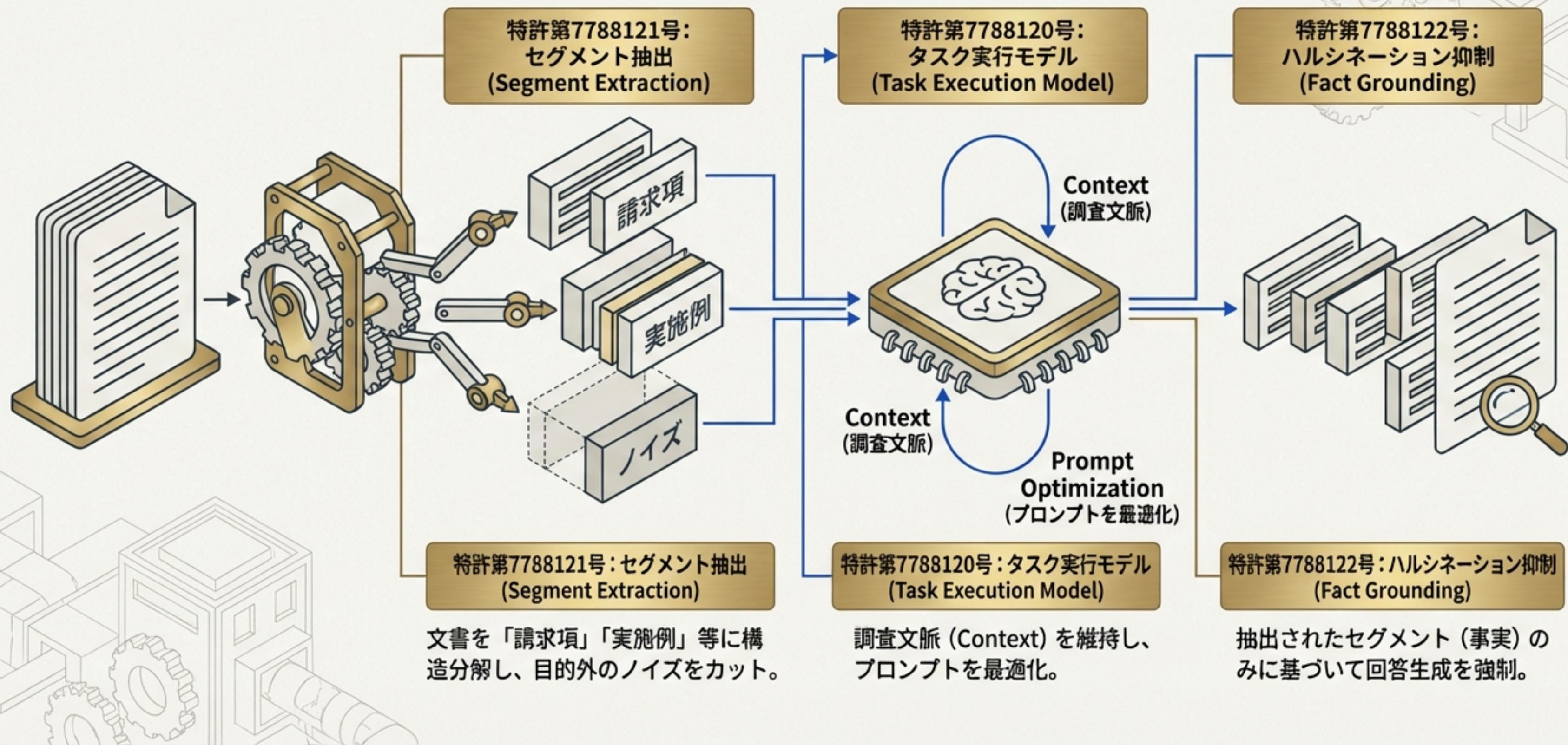


3. Output



Human Process: 20 hours → AI Process: 30 mins

ハルシネーションを抑制する特許技術 (Safety Architecture)



競合環境と戦略：Best-of-Breedのアプローチ



戦略的適合：国内の深掘りはサマリア、グローバルの網羅性はPatSnap。タスクに応じた使い分けが最適解。

知財テクノロジーの民主化

Enterprise / Big Pharma

これまでは高額ライセンスによる特権

SaaS Model
+
AI Automation

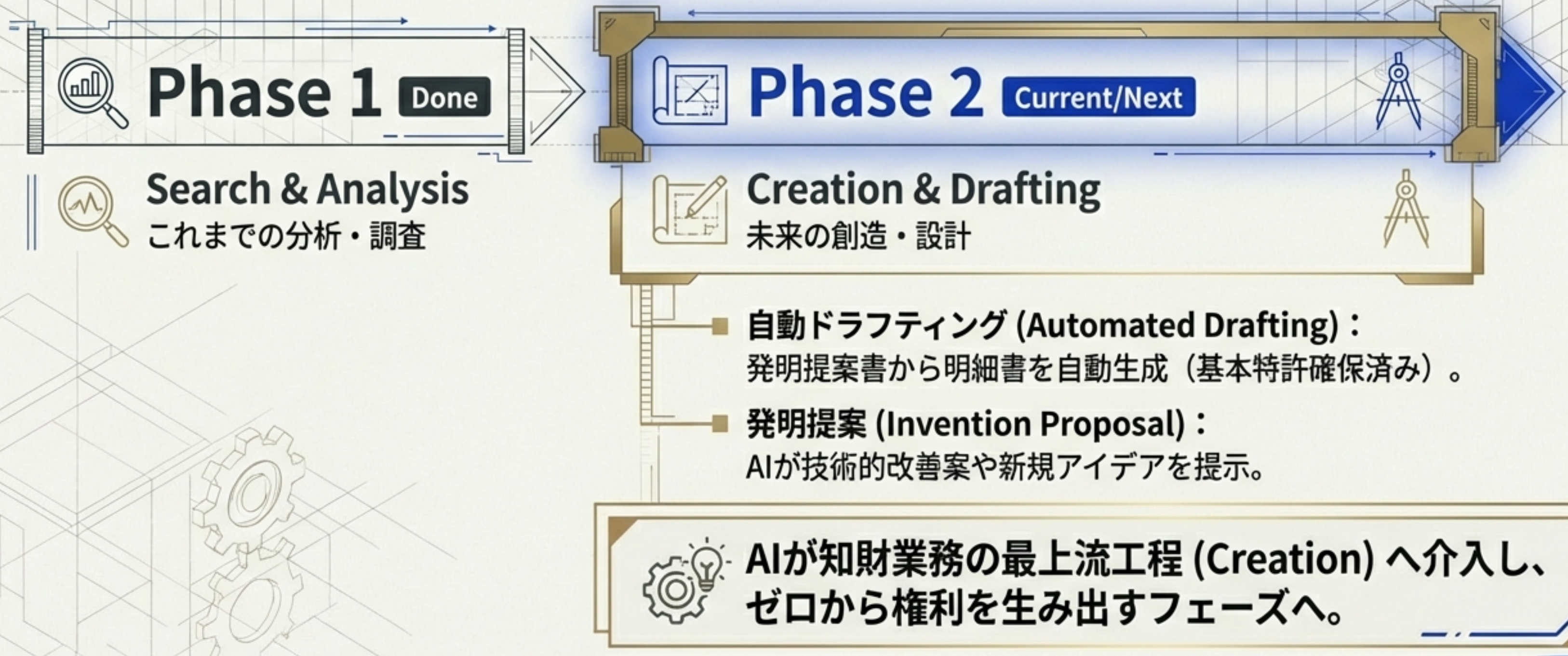
SMEs / Law Firms

root ipクラウド × サマリアにより高度分析が利用可能に

導入実績：
360社以上

継続率：
97%

ロードマップ 2026：分析から「創造」へ

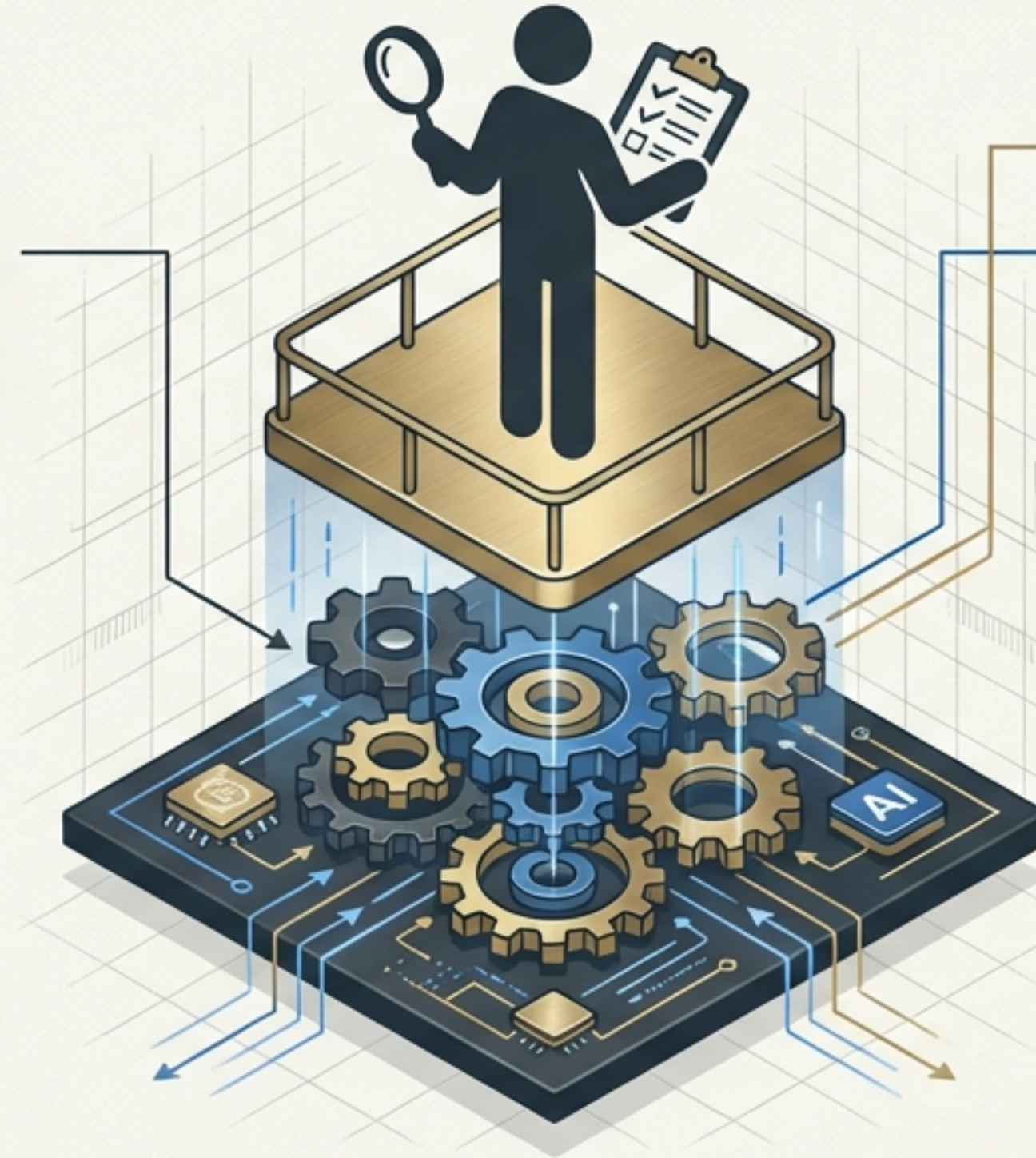


人間の役割の再定義：Human-in-the-Loop

FROM:

Searcher / Operator

検索式の試行錯誤、大量のノイズ処理に時間を費やす。



TO:

Auditor & Strategist

- **Audit:** AIの見落としがないか検証する眼。
- **Strategy:** 創出された時間で、事業戦略と知財ポートフォリオを同期させる。

結論：実験段階の終了と実装フェーズの開始



「再現率85%」は、AIが信頼できるパートナーになった証。
「思考 (AI)」と「管理 (システム)」の融合が、競争力の源泉となる。

AIを前提とした「新たな知的生産プロセス」を定義せよ。
2026年、知財実務は次の次元へ。